

陸奥國分寺



陸奥国分寺由来

陸奥国分寺は天平13年(741)の春、第45代聖武天皇の勅願により建立された日本最北の国分寺である。

『続日本紀』によれば、聖武天皇は全国60余の国毎に僧寺と尼寺の2か所を置き、一方の僧寺を金光明四天王護国の寺、もう一方の尼寺を法華滅罪の寺として、国家安穩・疾疫消除を願い、『金光明最勝王経』・『妙法蓮華経』等を転読させたとされている。

寺の開基は行基菩薩であり、創建当時は「寺の華」と考えられていた七重塔が高くそびえ、七堂伽藍・三百坊を数える大寺院であったと伝えられている。七重塔は承平4年(934)、落雷のために焼失し、七堂伽藍・三百坊は文治5年(1189)8月、源頼朝の藤原氏追討の兵火により悉く焼失してしまったという。

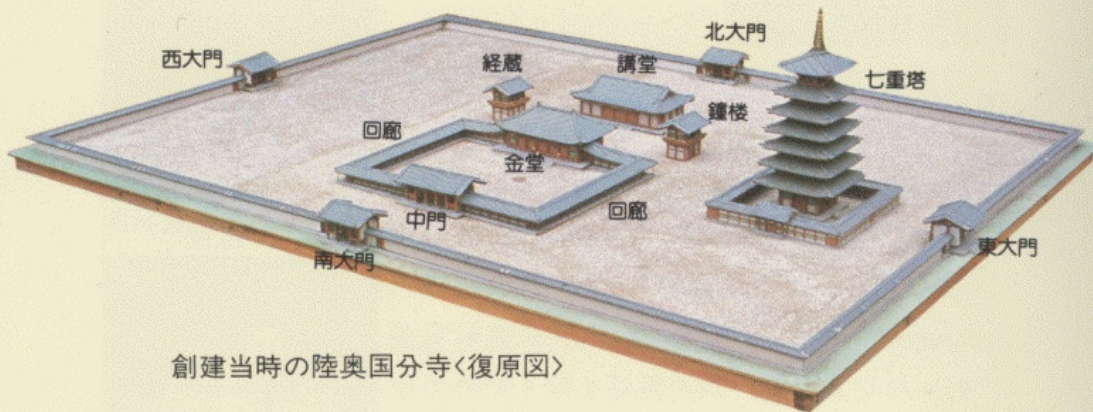
その後、伊達政宗公により、慶長10年(1605)から3か年を費やして、薬師堂・仁王門・鐘楼をはじめ塔中の子院二十四坊が造営されたのである。

陸奥国分寺跡<史蹟・国指定>

陸奥国分寺の創建当時の規模については近年まで明らかではなかったが、昭和30年(1955)から5か年にわたって行われた発掘調査により、その詳細が明らかにされた。この発掘調査の報告書『陸奥国分寺跡』によれば、慶長12年(1607)、伊達政宗公が建立した薬師堂のある位置に、2丁四方(約240メートル)の寺域があり、その境内に南大門・中門・回廊・金堂・講堂・七重塔・鐘楼・経蔵・僧坊・食堂の跡が確認され、創建当時の多数の古瓦や七重塔の頂にあった相輪の一部、擦管が出土している。七重塔の心礎は巨大な安山岩で、心柱のホゾ穴が在り、天平以来1200年の歳月を経た今も当時のままに位置している。



国分寺来由記



創建当時の陸奥国分寺<復原図>



細弁蓮華文鏡瓦



宝相華文鏡瓦



重弁蓮華文鏡瓦



中門跡から金堂跡をのぞむ



七重塔心礎

薬師堂〈重要文化財・国指定〉

慶長8年(1603)、岩出山から青葉城へ居を移した伊達政宗公は、国分寺の復興を計画し、慶長12年(1607)10月、旧陸奥国分寺講堂跡にこの薬師堂を再建したのである。

薬師堂は、桃山様式の方五間、向拝をつけ勾欄をまわした単層入母屋造り、本瓦葺の仙台最古の建造物であり、重要文化財の指定をうけている。堂内の家形の厨子には秘仏の薬師如来像が安置され、須弥壇には日光・月光菩薩像が安置されている。

準胝観音堂

旧陸奥国分寺18伽藍の1つで、文治5年(1189)焼失したが、享保4年(1719)5月、伊達吉村公夫人、長松院の宿願成就により建立されたという。現在の準胝観音堂は、その後延享2年(1745)3月伊達宗村公が、国家安全と長松院の菩提のために再建したものであり、本尊の準胝観音像は満海上人の作とも恵心の作とも伝えられている。

また、この準胝観音堂は仙台三十三観音の25番札所にもなっている。

仁王門〈重要文化財・県指定〉

創建当時の南大門の位置に政宗公が薬師堂造営の際に建てたもので、単層入母屋造り、間口3間(5.4メートル)奥行2間(3.6メートル)茅葺屋根で門内の左右には運慶作と伝られる密迹金剛(左)と、那羅延金剛(右)の仁王像が安置されている。



金堂(薬師堂)

陸奥国分寺本坊

現在の陸奥国分寺は真言宗で、本坊は旧別当坊であり、本堂には薬師如来像を安置している。また、本堂脇の池畔には、むえんの仏たちを供養する無縁塚が建てられている。

大塔<多宝塔>

この大塔は、昭和57年(1982)11月に落成した密教独特の重層の塔で、1階部分は3間半4面からなる総高21メートルの大塔である。1階部分には金剛界大日如来像を安置し、2・3階には釈迦の御遺骨と御信徒の永代供養の御位牌を安置している。



準辰観音堂



準辰観音像



仁王門



陸奥国分寺本坊



大塔(多宝塔)

宝物館

宝物館には、鎌倉時代の作とみられているカヤ・カツラ材、寄木造りの十二神将像・毘沙門天立像・不動明王立像等の重要文化財をはじめ、紺紙金泥法華経・金光明最勝王経、また発掘調査により出土した貴重な創建当時の古瓦等を展示し、一般公開している。



宝物館

開館／午前9時半 閉館／午後4時

縁起物

蘇民将来

蘇民将来とは疫病除けの八角の守木であり、中国の蘇民と将来の兄弟が疫病を免れたという故事に由来するとされている。



蘇民将来

木ノ下駒

平安朝のころから宮城野原でひらかれた馬市で売られたもので、馬の災厄を除くための守護神とされてきたものである。この木ノ下駒は三春・八幡駒とともに日本三駒としても有名である。



木ノ下駒

ボンボコ槍

これは、竹の先に「ひょうたん」を結び、麻をそえ、槍の形に作られたもので、火伏・開運のお守りとされているが、これは豊臣秀吉が戦勝を祝って槍先にひょうたんをつるしたと伝えられることより、当山では政宗公が朝鮮から無事帰郷されたのを祝い薬師堂再建の時の縁起ものとされている。

行事

御本尊薬師如来は人びとの身体と心の病からお救いくださる仏様として、古くから信仰をあつめ、多くの参拝者が訪れている。

1月1・2・3日(薬師堂)・
元朝大護摩祈禱
〈新春交通安全祈願〉

1月8日(薬師堂)初薬師

1月14日(薬師堂)どんと祭

旧暦1月7日(薬師堂)七日堂〈修正会〉
本尊御開帳
柴灯大護摩〈火渡り祭典〉

2月3日(薬師堂)節分会〈厄除追難式〉

4月第3日曜日(薬師堂)節句祭
〈春まつり〉

8月10日(本坊)大施餓鬼会〈総供養〉

8月15・16日(大塔)万灯会
〈祖霊供養〉

11月15日(薬師堂)七五三
〈健康祈願祭〉

12月8日(薬師堂)納め薬師

陸奥国分寺とその周辺

陸奥国分寺周辺は、古来より宮城野と呼ばれ、『古今集』に

宮城野の木荒の小萩露をおもみ風をまつ
ごと君をこそ待て

と、よまれた様に、宮城野萩の名でも知られている。

約3万坪の境内には、史跡陸奥国分寺跡をはじめ、心字ヶ池畔には芭蕉翁の

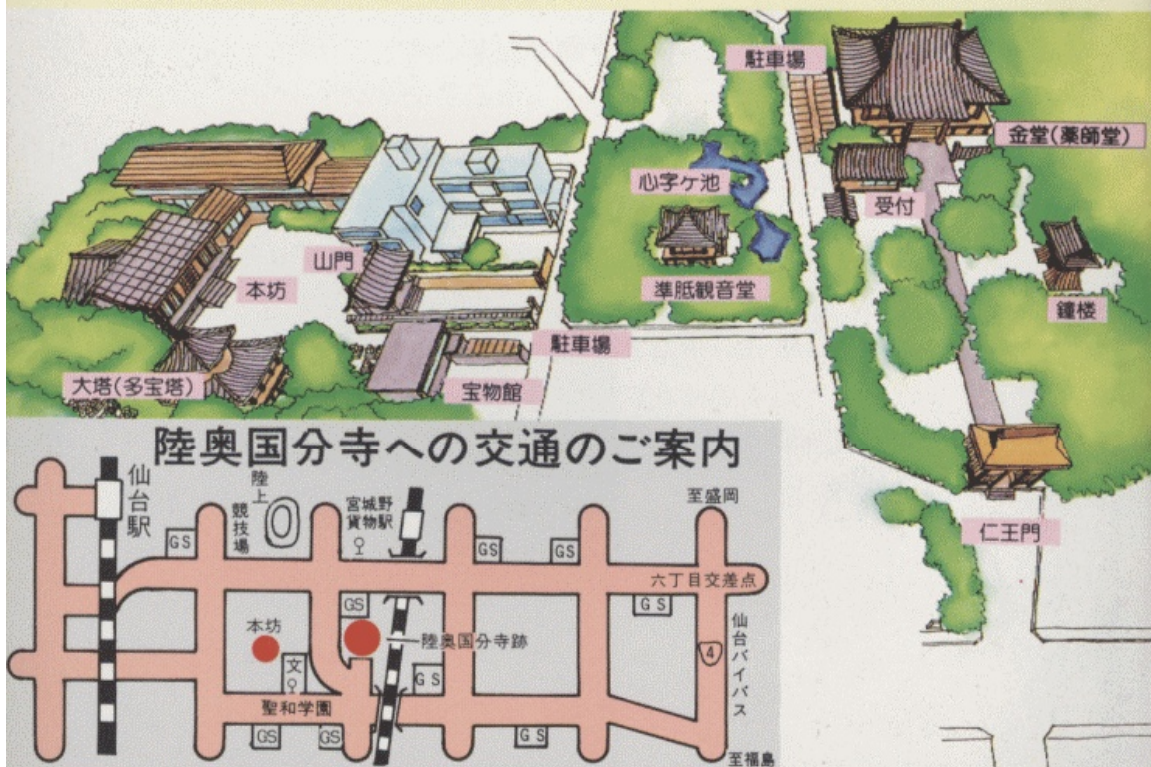
あやめ草足に結ん草鞋の緒

との句碑や、大淀三千風の句碑がある。また、江戸時代の力士、横綱谷風ゆかりの牛石、谷風誉れの足型など、句碑、石仏が多数散在し、歴史の散歩道になっている。

さらに、春は桜の花と柳の若緑が青空に映え、秋は、また宮城野萩、さらに鮮やかな紅葉に彩られ、訪れる人は、またとない自然の景観を満喫されるでしょう。



芭蕉翁の句碑



陸奥国分寺への交通のご案内



交通
(仙台市営バス)

■仙台駅前バスターミナル12番乗場より 大和町行で薬師堂下車徒歩2分
■仙台駅前バスターミナル9番乗場より 志波町行宮城野貨物駅前下車徒歩2分

陸奥国分寺

仙台市木ノ下2丁目8番28号

☎本坊(0222)56-1883・99-1312

宝物館 99-1311

御祈禱受付所 91-2840(午前9時より午後4時まで受付)